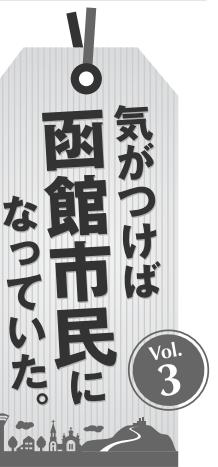




十字街を行く路面電車（本書収録）。
函館市中央図書館蔵、昭和6年発行絵葉書



Vol. 3

路面電車100周年の パンフレットに

函館に固有の魅力を掘り下げる

11月の中旬に、新函館ライブラリーフォトブックの印刷書籍となる『市電でめぐる函館100選』を刊行しました。箱館歴史散歩の会でおなじみの中尾仁彦さんと私の共著です。函館人である中尾さんと、よそ者である私といふ2つの視点で、市電沿線にある函館の100の名所を厳選し、丁寧に紹介しました。

函館のガイド本ではありますが、イベントやグルメに関する情報は一切掲載しておらず、歴史や文化が中心です。そして「ここに、こいつらの魅力がある」という説明にとどまりず、「それはなぜなのか」という部分も、できるだけ詳しく紹介しました。いわば箱館歴史散歩の会の書籍版です。「イベントやグルメを抜きにしても、函館にはよそにはない固有の魅力がこれだけもある」ということを、この一冊を通して表現したいと考えたのです。

先に北海道新聞社から『函館の路面電車100年』（函館市企業局交通部編）という本が出ていますが、こちらは路面電車の歴史と今を町並みや車両の変遷がわかる写真もふんだんに使って紹介した本であり、内容はまったく別物です。どちらか面白いかというよりもしきりに併せて読むことで、「路面電車の走る町・函館」の魅力がより実感できると思いまます。

伝説のある町に暮らすところの価値
よそ者である私が、なぜ函館の本を出さうとするのか。それには次のような理由があります。
函館の前は京都に30年暮らしましたが、育ったのは大阪近郊の新興住宅

えたという記念すべき年に、地元の出版社として花を添えたこと、何とか年内ギリギリの発行にこぎ着けました。

函館のガイド本ではありますが、イ

地です。何の歴史も伝説も存在せず、にわか造りの住宅が立ち並ぶだけの地で、たゞれば、大きくなつてからの故郷味気ない土地でした。

そのためか歴史のある町を訪ねるたびに、地元の人々に強い羨望を感じていました。旅で函館に来ていたときも、「この町の子どもは大人たちから、ここには昔高田屋嘉兵衛の御殿があった、この道はペリーが通った道なんだ、どうた話を聞かされて育つのだろくな」などと勝手に想像し

羨ましく思うと同時に、そういう体験はいくら努力しても手に入らないといふことを悔しく思つていました。しかしながら函館の子どもたちは、あまり町の歴史を知らないし、興味もないという話をよく聞きます。だいたい子どもなんてそんなものかもしませんし、今は歴史の息づく西部地区よりも郊外に住む人口の方がはるかに多くなつたといふこともあるのでしよう。

いずれにしても、せっかくこんないい町に暮らしているのに、そのよさに気がつかないのはもつたいないと思うのです。しかも函館には今も路面電車が走っています。

1895（明治28）年、京都に登場した路面電車は、全盛期を迎えた1932（昭和7）年には全国65都市を走るまでになりますが、現在私営・公営を含め路面電車の走る町は20以下となっています。函館はその数少ない町の一つです。

追伸 12月5日、中尾仁彦さんが、平成25年度「北海道地域文化選奨」（特別賞）を受賞されたとのニュースが飛び込んできました。中尾さんおめでとうございます。



★プロフィール★
おおにし つよし
大西 剛さん
大阪出身。
2011年秋より、函館に移住。
「新はこだてライブラリ」を設立し、函館発の電子書籍・印刷書籍の出版に取り組む。
2012年には、2008年秋からの函館通いで感じた町の魅力を綴った「新函館写真紀行」を出版。
現在は、移住サポーターとしても活躍している。

まちセブン階カフェ・アトリエ・ロッフ他市内書店で発売中
「市電でめぐる函館100選」
1,500円（消費税5%込）